

こころの便り

第298号
令和7年1月

〒679-1434
兵庫県たつの市新宮町大屋六六八十二
株式会社新宮運送グループ
代表/木南 一志
kininami@shingu.co.jp
電話0791-751212



新宮運送ホームページ

知恵を絞る

新年あけましておめでとうございませう。能登地震から一年が過ぎ、阪神淡路大震災から三十年の節目を迎えます。災害の多い我が国では、地震や水害を抜きに地域づくりを考えると、助け合う文化を災害時だけでなく、継承していききたいものです。

2024年が物流改革の始まりの年となりました。個人的な意見としては大賛成とまではいかない改革ですが、陽の当たりにくいトラックドライバーという仕事、昭和の時代のよくな憧れの仕事になってもらいたいと思っております。昔は良かったというところではなく、過去から学んでいくことで新しい時代の工夫を重ねたいと考えています。

便利な時代ですから、スマホに問いかけるだけで論文が出来上がったり、答えが返ってきたりします。しかし、大切なのは地域を支える「おたがいさまの心」と同じように人間同士の絆が無くてはなりません。

建築現場では、雨が降る中で作業はできません。しかし、資材配送という物流は天気に関係なく動きます。その結果、持ち帰りや再配送というややこしい処理をしないで済むようになります。建築職人さんたちが重宝しているホームセンターと提携して建築資材を一時受取

してもらえないかという提案をしてみました。これこそ「おたがいさまの心」だと思います。

かつては卸問屋という仕組みがあらゆる分野で支えてくれていました。それが物流経費削減という名のもとに消されていきました。結果として、その負担は物流部門が背負わざるを得なくなつたのです。ほんの少しの負担です。いざ現場にいたら、トラックが入れない場所であったり、受け取る職人さんがいなかったり、次のトラックが生まれてきます。ではドライバーにスムーズに連絡を取るために携帯の番号を知らせてくれとなります。

小さな負担が良かれと思う気持ちで膨らんでいきます。燃料や車両価格が高騰しても運賃は上がらず、要求してこないからだと知らぬ顔を決め込まれて、ドライバーの給料は上がらないままサービスだけが増えてきました。

ボヤキのように聞こえるでしょうが、我が国が向きあわねばならないのは、そのような小さな負担が積み重なって崩れていく仕組みをどこで食い止めるかなのです。選挙の票にもつながらないから政治家もやらない。

誰の仕事でもない仕事を誰かがやらねばならないのです。

被災地にこころを寄せながら

木南 一志 拝

尋常小學校國史 上巻

第十六 源義家 ④

剛の席を分ちて兵士をよびて、毎日兵士の戦ふ様を見、剛の者と臆病者との席を分ちて、戦終りたる後、それらの席に着かしたれば、兵士はいづれも剛の者の席に着かんと心がけて、皆勇み戦へり。鎌倉権五郎景正が、わづかに十六歳にして、武勇のほまれをあげたるも、此の時のことなり。

かくて年月たち、城中兵糧乏しくなり、其の勢ややく衰へ、武衡等は遂に城を焼きて逃げたり。義家追ひうちて之を斬り、奥羽地方全く平ぎぬ。時に三十七代河天皇の御代の初にして、世に之を後三年の役といふ。亂の後、義家は、戦功の賞を朝廷に請ひたるに、許されざりしかば、義家はおのが財産を分ちて部下の將士に與へたり。これより義家はますます、武士の間に重んぜられ、源氏の勢は殊に東國にて盛になれり。

第十七 平氏の勃興 ①

源氏とならびて名高き武士は平氏なり。平氏は桓武天皇より出で、其の勢一時は源氏に劣りしが、平忠盛の子清盛出づるに及びて、大いに家名をあらはせり。

此の頃藤原氏の一門に権力の争あり。左大臣藤原頼長は、かねてより其の兄關白忠通に代らんとし、兄弟仲よからざりき。されば第七十代後白河天皇の保元元年、頼長は天皇の御兄崇徳上皇の御子なる重仁親王を御位に即けたてまつり、おのれ關白となりて権力を得んとて、上皇にすゝめて兵を擧げんとし、義家の孫源為義を招けり。為義これに應じ、其の子為朝等をひきゐて上皇の御所に参りしが、為義の長子義朝は平清盛等と共に天皇の御召によりて皇居におもむけり。